

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
心豊かに自ら学び 生き生きと活動する納所っ子の育成 ～ともに 伸びる 教育活動の実現～	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「心を育む活動」の充実 ……か(感じて考えて動く心づくり)</li> <li>○「主体的に学ぶ力の育成 ……ぜ(全力で学ぶ意欲づくり)</li> <li>○「連携教育」の強化 ……つ(つながって学ぶ環境づくり)</li> <li>○「自己有用感・肯定感」の向上 ……こ(根気強くやりぬく姿勢づくり)</li> </ul>

達成度 A : ほぼ達成できた  
B : 概ね達成できた  
C : やや不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①か・感じて考えて動く心づくり つ・つながって学ぶ環境づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標、本年度の重点目標「かぜつこ」の周知	・教職員、児童、保護者に周知し、周知率を85%以上にする。	・様々な会議の機会、学校便り、学校HP、校内掲示等で周知・理解を図る。 ・児童には、行動目標的な合言葉で示して、浸透させる。	A	・学校便りの冒頭に教育目標を常に表記し、保護者は90%以上、児童は80%以上に周知できていた。また、「かぜつこ」という合言葉は全校朝会等で説明を行うとともに、2年児童による「かぜつこ」キャラクターの愛称募集の取組みにより、「かぜつこ」の合言葉が浸透してきた。	・教育目標も重点目標も児童、保護者、職員へ機会ある毎に話題にする。 ・育友会役員会で学校での取り組みや学校の様子を伝えて、協力を要請していく。
	○危機管理	・児童の事件、事故の未然防止策の徹底 ・教職員の危機管理意識の向上	・毎月の安全点検、自ら命を守る意識を高める安全指導を実施し、児童が安心・安全に生活できる環境をつくる。 ・全職員が「～かもしれない」という意識を常にもち、未然防止・早期対応を図る集団にする。	・実際の想定した訓練や具体的な事例を示した指導を通して、児童が主体的に考え、自分の命を守る意識を育む。 ・全職員で危機管理マニュアルの見直しと確認をともに、必要な情報を迅速に共有できる職場の雰囲気を作る。	B	・計画的な避難訓練を実施することができた。また、その都度児童へ自分の命を守ることの大切さを伝えた。 ・危機管理マニュアルを作成するにあたり、共通理解をする時間を設けることができた。危機管理マニュアルを使ったミニ研修を行う回数が少なかった。	・各種避難訓練の事前・事後指導の中に、児童が気づきや感想を発表したり、書いたりする時間を設けることで、自分の命を守る意識を育てていく。 ・職員会議でミニ研修を定期的実施することで、職員が共通した危機管理意識を持つようになる。
	○開かれた学校づくり	・学校情報の公開 ・授業参観、学校行事の充実	・定期的な学校便り、学校HP、はなまる連絡帳等により、保護者・地域への学校情報の公開を図る。 ・授業参観、各種行事等への保護者の参加率を80%以上にする。	・学校便りや学校HPで、学校情報と共に、保護者、地域に連携の大切さを伝える紙面作りを図る。 ・保護者、地域との連携行事については、早めに情報を発信し、活動支援の輪を広げる。	A	・学校便りと保護者への案内は、メール等で情報提供を機会ある毎に行なった。 ・保護者ばかりではなく、児童の祖父母も来校していた。 ・「教育の日」の来校者はのべ122名で90%以上であった。授業参観の平均参加率は90%であった。	・学校だより等を通じ、児童の様子や行事等のお知らせをこまめに発行し、現状の広報啓発活動をおこなって行く。 ・授業参観や各種行事等の案内を早め早めに配布し、保護者や地域の方へ予定を立てやすいようにする。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等効率化の促進	・会議や事務の効率化を図り、教職員が児童と向き合う時間を確保する。	・職員会議での協議を円滑に進めていくために、早めに資料を配付し、全職員が資料を読む時間を設ける。 ・定期的に分掌事務の進み具合等を得る場を設けることで、タイムマネジメントの意識付けを図り、定例退勤日の確実な実施を推進する。 ・業務改善と併せて、月1回職員にセルフケアチェックを実施したり、定期的にカウンセリングを行った。	B	・1月より会議資料を事務システムポータルサイトのキャビネットに格納し、自由に閲覧できるようにした。資料整理の時間が短縮された。 ・定例退勤日には、早めに退勤しようとする雰囲気が浸透しつつある。	・事務システムポータルのキャビネットの活用による会議資料のペーパーレス化の推進を図る。 ・定例退勤日を確実に実施する。 ・職員室内の連絡掲示板を積極的に活用して、分掌事務連絡の効率化を図る。

②ぜ・全力で学ぶ意欲づくり こ・根気強くやりぬく姿勢づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・学習意欲と達成感を育む授業づくり ・基礎的学習内容の充実 ・家庭学習習慣の定着	・「授業で学び合うことが楽しい」といえる児童を80%以上にする。 ・「基礎学習を繰り返して力がついた」といえる児童を80%以上にする。 ・「家庭学習の習慣ができてい」とみる保護者・児童を80%以上にする。	・全学年全授業で「めあての提示・学び合いと振り返りの場の設定」を徹底する。 ・どう考えたか、自分の言葉で説明させる活動(ノートに記録・グループワークやクラスワーク)を多く取り入れる。 ・主要4教科の授業のスタートには、学習内容の音読を取り入れ、既習内容の定着を図る。 ・朝のチャレンジタイムで「読む・書く」という基礎的な力を育む。 ・家庭と連携し、自ら進んで家庭学習に取り組む習慣をつくる。	B	・授業のスタートには、日直主導による既習内容の音読を続け、学習内容の定着とともに授業への前向きな姿勢づくりをすることができた。 ・学び合いに意欲的に取り組む姿が見られた。 ・1年生は、3学期より振り返りを書かせることで、さらに授業の充実を図った。 ・4年生では、めあての提示を徹底させて学習のゴールに向かわせ、できるまで練習を続けた。	・一生懸命考えた上での間違えた方法や答えの価値を認めるスタンスで臨み、授業にも生かす。 ・論理的に説明する力をつけるために、自分の言葉で説明させる活動(ノートに記録する、グループワークで説明する)を多く取り入れる。 ・家庭での学習習慣を定着させるために、宿題や保護者のサインの徹底を図る。また家庭生活習慣の見直しを図る機会を定期的を持つ。
	○小学校低学年の学習環境の改善充実	・基本的な生活・学習習慣の充実	・「集中して話を聴くこと」を心がける児童を85%以上にする。 ・「文字を正確に書くこと」を心がける児童を85%以上にする。	・「聴き取る姿勢」と「聴き取り方」の指導を段階的に行い、聴き取り力の向上を図る。 ・「正確に書き写す」指導を授業で積み重ねるとともに、保護者にも家庭で取り組める手立てを知らせ、正確な字形の定着を図る。	A	・教師の指導だけではなく、児童同士での言葉かけがみられるようになり、徐々に聴く態度が養われてきた。 ・繰り返し練習を行うとともに、ミスはそのまますず、やり直しを着実に行うことで字形が整ってきた。	・児童に教師や友達の話の内容の要点を確かめるようにする。 ・友達の発表を教師がそのままお返しして、全体に伝えることは避けるようにする。
	●健康・体づくり	・基本的な生活習慣の定着 ・体力づくりにつながる運動遊びの奨励	・早寝早起きを心がける子どもを85%以上にする。 ・体力づくりのために、学校で多様な運動遊びを楽しむ場づくりをする。	・「睡眠の大切さ」について、養護教諭と担任が連携し、発達段階に応じた指導を行う。生活ふりかきカード(生活習慣アンケート)を年5回発行し、保護者への啓発を図る。 ・各学年に応じた県スポーツチャレンジの種目や運動遊びを紹介し、集団運動遊びの日常化を図る。	B	・生活ふりかきカードの実施で、早寝早起きができていない児童は90%以上だった。 ・外遊びを奨励し、週に1回の縦割り遊びでも様々な遊びを計画し楽しく活動できた。 ・県スポーツチャレンジの紹介が不十分で子どもたちへの興味・関心が高まらなかった。	・県スポーツチャレンジの種目の紹介を委員会で行ったり、学年での取り組みを紹介したり表彰したりして意識を高める。

③か・感じて考えて動く心づくり つ・つながって学ぶ環境づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳、人権・同和教育の充実	・いじめや差別・偏見を見抜き、許さない児童の育成と部落問題学習の推進を図る。 ・相手思いや「あいさつ」や「言葉づかい」を心がける児童を85%以上にする。	・学期に一度、人権集会を行い、人権について全校児童が一斉に考える。 ・「あいさつ運動」を実施したり、「言葉づかい」について考える期間を設定し、意識付けと実践化を図る。	B	・全校朝会での話や、月の生活目標に対する取り組みを通じて、挨拶や言葉遣いへの意識を少しずつ高めていった。 ・「あいさつ運動週間」を設定したところ、児童の意識が高まり見られた。	・引き続き、根気強く、「～君」「～さん」付けでの呼称を徹底させる。 ・人権集会の計画的に実施する。 ・考え議論する道徳へと、「道徳の時間」の授業改善を図る。
	●いじめの問題への対応	・いじめの未然防止・早期対応	・「学校が楽しい」と感じる児童を85%以上にする。 ・職員全体に「報告・連絡・相談」を周知徹底し、組織で迅速に対応する体制を作る。	・毎月なかよしアンケートを実施する。生活指導協議会では、気になる児童へ支援の在り方について話し合う。 ・児童が共に伸びる異年齢集団による縦割活動を推進する。	A	・「学校が楽しい」と感じる児童が、3学期には90%を超えるようになった。気になる児童の情報交換や支援を密にした結果だと思われる。 ・管理職への「報告・連絡・相談」を徹底して、早めの対応を心がけた。	・今後も毎月なかよしアンケートを実施し、児童の悩みや困り感を早く把握し、対応していく。生活指導協議会では、気になる児童の情報共有し、支援の在り方について話し合う。 ・児童が共に伸びる異年齢集団による縦割活動を推進する。
	●志を高める教育	・地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ学習活動の推進	・生活科では「ふるさとの自然を知る」「肥前町の施設を知る」学習、総合的な学習の時間には「ふるさと体験学習」を計画的に入れ、郷土のよさに興味関心をもって学ぶ授業を実践していく。	・これまでの地域学習について、ねらいを明確にすると共に、地域を愛し志を高める学習を計画的に進める。 ・ふるさと体験学習の成果を、校内外に発信する場を設ける。(掲示、学校HP、お便り等)	A	・低学年の生活科では、動植物を観察したり、花や野菜を育てたりする活動を多くし、児童は意欲的に学習した。 ・中学年では、「ふるさと体験学習」として、自慢となる景勝地や施設、祭りを調べ、学習発表会等で地域の人々に発信することができた。	・児童の実態を踏まえつつ、「ふるさと体験学習」の学年間の系統性を洗い直し、計画を立案する。 ・学習活動を表現する場として、掲示板を有効活用し、学年間の交流の充実を図る。
	○特別支援教育	・個に応じた教育の充実	・支援が必要な児童の情報を全職員で共有し、状況に応じた指導・支援を行う。 ・全職員が「学習で困難さをかかえる児童への学習指導等の在り方」を学ぶ機会を設ける。	・校内支援委員会、支援のあり方について見直しを図り、全職員で関わる。 ・校内研修で、スクールカウンセラー等を講師として支援のあり方を学ぶ研修会を行う。	B	・学期ごとに行なったのびこ研の中で、支援が必要な児童の情報を話し合ったが、具体的な対応まで話し合う時間がなかった。 ・校内研修でスクールカウンセラーに講師として参加してもらい、児童の支援の在り方について、指導・助言をもらうことができた。	・支援が必要な児童の実態・姿容等を的確に把握し、よりよい支援につなげていく。また、のびこ研の中で、特に対応について話し合う児童を前もって決めておく。 ・保護者とスクールカウンセラーとの連携を充実させる。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○本年度のまとめ  
・学校目標「心豊かに自ら学び生き生きと活動する納所っ子の育成」重点目標「か・ぜ・つ・こ」を目指し教育活動に取り組んできた。学校評価について、教職員全員で取り組み、学校全体の取組を共通理解することができた。学力向上アクションプランに基づいた授業の流れを丁寧に実践することで、教師は見通しをもって授業を行うことができた。算数科では既習内容を活用して、児童自身が問題を解決していく授業を組み立てることで、学習活動に前向きに取り組めるようになった。

○次年度の取組  
・学力向上は、引き続き本校の喫緊の課題である。来年度は唐津市学力向上指定校として2年目を迎える。全職員で学力向上アクションプランに基づいた授業改善等を推進し、学習規律としての「話を聞く力」の定着をはじめとして、学習習慣の定着・学力向上に取り組んでいく。  
地域や保護者の協力で教育活動や体験活動は、児童の貴重な体験となっているが、目的を明確にして単元計画を立てる必要がある。各学年の教育計画を見直し、学校全体として一体感のある教育活動を行うよう調整していく。  
・教育効果を上げるために、組織として学校全体が向上できるように、取組の焦点化・共通理解・共通実践を行っていく。来年度へ向けて、具体的な改善策や向上策、新年度の当初に提示し、「チーム納所」の取り組みとなるようにしていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目